

### < 3. 現在の流行状況は？ >

2020年3月に世界保健機構(WHO)が今回の新型コロナウイルス感染症を「パンデミック」と宣言しました。パンデミックという言葉は、国・地域の広がり具合を指す言葉で、全世界的に広がっている（全世界的に封じ込めることが難しい状態になった）ことを指します。

パンデミックは非常に重大な局面に移行したことを意味しますが、宣言したことで状況が大きく変わる可能性もあります。つまり、WHOがパンデミックと言おうが言うまいが日本の状況は変わらない一方で、様々な機関や企業は「自然に治まらないなら研究対象・投資対象」と思うようになります。例えば、ワクチンや治療薬の開発は、一気に進む可能性があります。もし研究費を大量にかけても、自然に治まってしまうと無駄になってしまいますからね。WHOのお墨付きが出たことは大きなことになります。

中国や世界各国での状況をみながら、日本での状況を考えていきましょう。中国の武漢（湖北省）から始まり、当初は海鮮市場に関連した感染と言われていましたが、2週間もすると市場と関連のない患者が増え、瞬く間に中国全土に感染が広がりました。感染管理において、どの経路で感染が広がったかが追えているうちはまだ封じ込めが可能とされています。関係した部分を順次押さえればよくて、曝露した可能性のある人を隔離して、発症を観察しておけばよいわけです。関連が追えなくなるということは、症状を出していない患者が潜在的にたくさん存在していて、どこを封じ込めればいいのか分からなくなっていることになります。どこを抑え込めばいいのか分からないので、全部閉鎖したのが中国で、国レベルで都市を封鎖して「隔離」を行いました。

この政策は社会活動を低下させますが、もちろん効果は絶大です。ここ最近中国で新規発症する新型コロナウイルス感染症は減少してきていて、中国では抑え込みつつあります。

実は、ウイルスに感染した直後に発症して、100%死亡するような殺人ウイルスだったら、こんなに全世界に広まらないかもしれません。だって、患者が死亡した瞬間にウイルスも行き場がなくなり共倒れになります。他の人に自分の分身を感染させて勢力を増やしていくはずなのに、うつす時間もなく、また自分が分身するための場もなくなってしまうわけなので、そんなウイルスが全世界に蔓延するなんて絵空事ですよね。凶悪であることと人を乗り換えて勢力を広げることは必ずしも一致しません。新型インフルエンザウイルスが全世界に広まったのは、人が死なない程度に比較的軽症で患者が出歩くことができたからです。

また、飛行機などの移動手段の発達したことで、全世界に患者を届けることができるようになりました。つまり移動できる軽症患者が、様々に移動したことで全世界にウイルスが配給される結果となっています。特に流行している地域（中国・韓国・イタリア・イラン・スペインなど）はありますが、パンデミックと宣言された今、どこかの国だから危険とか安全とかではなくなっています。

現在の日本および中東遠地域の状況について説明します。

まず、日本国内での発生とダイヤモンド・プリンセス号での発生は分けて考えるべきです。日本国内での流行具合（感染の広がり具合）とダイヤモンド・プリンセス号での発生数は関連しません。

日本国内の発生状況についてリアルタイムという点では、

- 厚生労働省の報道発表一覧（新型コロナウイルス）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00086.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00086.html)

が比較的分かりやすいかと思います。

大切なことは、自分の地域でどれほどの患者が出ているかを見ていただき、人数が少なければ「まだ流行していない」とご理解ください。もちろん県単位では、広すぎて実際の住居地域との差はあるかと思います。また何人の患者が出たら「流行」とするかも悩ましいところですので、あまり細かい解釈に用いるというよりは、大雑把な「流行状況」という部分で活用してください。

例えば、中国で発生したときにみなさんは「明日自分は感染するかも」と思ったでしょうか？では、北海道で発生しているときは？静岡市と掛川市/袋井市も地理的に離れていますので、静岡市で発生しても当地域で流行しているという解釈にはならないかもしれません。重要なことは、街中で「ウイルスを広げる可能性がある人（患者）がどれほど存在しているか」です。これが「地域の流行」となります。ウイルスを持っている人が完全に把握されていて、その人が病院の中で完璧に隔離されていれば、それ以外の地域（例え病院内であっても）では「流行していない」こととなります。前述の、中国と掛川市/袋井市の関係と同じです。中国で隔離されて街が封鎖となり、国が渡航制限をかければ当然ながら掛川市/袋井市は安全です。逆に、街中・病院の待合などで、ウイルスを持った人がたくさんいるようになると「地域で流行している」こととなりますので、注意が必要になります。流行状況をきちんと把握した上での対策を当地域でも立てていきますのでご理解のほどお願いいたします。マスクやトイレットペーパーの件もそうですが、全体の感染対策におきましては「自分だけではなく、みんなのために」冷静な対応をお願いします。みなさまの冷静な対応が、重症患者を救うことにもなります。

2020年3月23日現在、静岡県西部地域で新たに新型コロナウイルス感染症は確認されていません。といっても、新型コロナウイルスじゃなかったら、他の人にうつしていいかと言うと…もちろん、そうじゃないですよ。旧型コロナウイルスだって、A群溶連菌だって、マイコプラズマだって結核だってうつしてはいけません。人に病原微生物をうつさない行動がどのようなものなのかということと一緒に考えていただけると嬉しいです。

最近海外から帰国された方の発症が増えてきていますので、帰国された方は体調の変化に注意していただき、「自分は感染のリスクが高いと認識しながらの行動」につきまして

ご協力お願いいたします。問題なのはウイルスであって個人ではありません。「8. 地域のみなさんにご協力いただくこと」を参考にさせていただいて、市民のみなさんには「誰かを悪者扱いする行動」は謹んでいただき、みんなで協力し合いながら、この状況を乗り越えていけるといいなと思っております。

新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について（令和2年3月5日版）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_09993.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09993.html)